

このような不動の定位を、他の複数個体でも白浜町の異なる地点で時期も違えて目視観察やスキングダイビングで確かめている。それらの観察は今回ほど長期ではないが、本種は一度定位したら、その場所をなかなか変えないといえる。

引用文献

小郷一三. 1995: オオウミシダ. 西村三郎 (編著) 原色検索日本海岸動物図鑑Ⅱ, pp. 511-512. 保育社会, 大阪.

(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)

京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所

和歌山県白浜町産の珍しい稚イセエビ (イセエビ科)

Rare juvenile *Panulirus japonicus* (Palinuridae) from Shirahama Town,
Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

2015年11月22日、白浜町の瀬戸漁港のなじみの漁師さんから小型のイセエビ *Panulirus japonicus* (Von Siebold, 1824) を頂いた。体長はわずか55mmの生まれてから1年以内の稚エビで、数日前に白浜町沿岸にしかけた網にかかったとのことで珍しいとのことである。

さっそく水槽に入れて飼育を開始した。しかし、1回も脱皮することなく、水槽のガラスが割れた事故で2016年1月27日に死亡した(図1)。この個体の頭部には大小の触角が1対ずつあり、小さな第2触角で威嚇音を発することもできる。護身用の太くて長い第1触角は1本が折れていた。胸部には海底を這う5対の歩脚があった。腹部の5対の腹肢は遊泳用で、水槽内では、驚かすと後ろ向きにすばやく飛ぶように泳いだ。人工餌を与えて元気だった。イセエビは国内では房総半島以南の岩礁域に分布し、台湾が南限とされる(峯水, 2000; 加藤・奥野, 2001)。

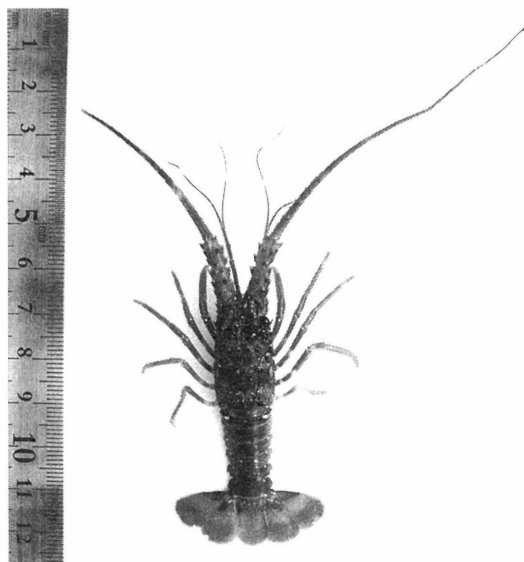


図1 2015年11月中旬に白浜町沿岸で網にかかった稚イセエビ (2016年1月27日死亡時に撮影)

本個体の過去と未来について、幾つかの文献やインターネットなどを基に、簡潔に記しておきたい。雌の腹肢で直径約0.5mmの卵の中で1～2箇月かけて発生後に孵化したフィロソーマ幼生が、約1年後にプエルルス期を経て体長3cmほどの稚エビになる。その後、1年間に約10回の脱皮をし、体長10cmほどに成長する。既に述べたように、本個体はこの発育段階に当たり、数回の脱皮を重ねているはずである。このような小型個体は成体よりも多数存在しているはずだが、野外では頻繁に確認できない。従って、本個体は稀少例となる。続く成長の2年目には約5回の脱皮をし体長15cmに、3年目は約3回の脱皮で体長18cmに、4年目は約2回の脱皮、5年目以降は1年にたった1回程度の脱皮となる。体長が約12cmで成熟可能なので、受精卵から3年間順調に成長すると親になれる。フィロソーマ幼生からだ約30回の脱皮を重ねることになる(Wikipedia)。

脱皮時は体が柔らかく食害を受ける危険な時であり、硬い体になるまで約6週間もかかるの

で、毎回が命がけある。1腹60万個の卵をつける親になれるのはごくわずかの個体で、厳しい生存競争にさらされ続けている。こうして通常で体長25cm、最大級で約40cmに達する(峯水, 2000; 加藤・奥野, 2001; Wikipedia)。

引用文献

- 加藤昌一・奥野淳兒. 2001: イセエビ, p. 59, *In* エビ・カニガイドブック, TBS ブリタニカ, 東京.
- 峯水 亮. 2000: イセエビ, p.118, *In* 海の甲殻類, 文一総合出版社, 東京.
- Wikipedia. イセエビ <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%BB%E3%82%A8%E3%83%93>

(〒649-2211 西牟婁郡■浜町459)
京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所